

衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- 第5学年・第6学年の飼育委員を中心にウサギが快適に過ごせるよう、毎日、餌やり、小屋の清掃をしています。
- 飼育委員会では、委員会が発足すると学校担当獣医師に来ていただき、飼育のポイントについて御指導を受けています。



ウサギの健康診断 体重測定

- 飼育委員会では、学校担当獣医師に教えていただいたことを基に、責任をもって世話をしたり、教えていただいたことを、全校集会で発表したりしています。
- ウサギに触れたり、小屋の清掃をしたりした後は、手を洗ったり、手指を消毒したりすることの大切さを御指導いただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギが、健康で安心して生活できるように、定期的にウサギの健康診断、飼育環境、世話の状況について、指導・助言をいただいています。
- 学校担当獣医師が、体重の増減、糞便の様子、毛並みなどをチェックし、継続的に記録していただくことで、安心して飼育することができています。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師の御指導を受け、えさを与える、小屋の掃除をするだけでなく、決められたえさの量を確実に与えたり、体重や糞便の様子を飼育日誌につけたり、責任をもって飼育に当たっています。
- 委員会発表では、学校担当獣医師から教えていただいたこと、日々の飼育の様子など、意欲的に全校児童に伝えました。
- 低学年の児童がウサギを見に来たとき、静かに見ることや、優しくなでてあげることなど、ウサギとの接し方について、低学年の児童に、自信をもって指導しています。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

- 生活科「生きもの 大すき」の時間を、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月に1回ずつ計7回実施しました。
- 4月から11月までは2年生、12月からは1年生も参加しモルモットの飼育を行っています。
- 今年度も、学校担当獣医師の助言を受けて、飼育日誌をつけるようにしました。
- 元気があるか、えさを食べているか、糞^{いん}の状態などを観察項目にして、日々の飼育活動に生かしています。
- 11月の飼育委員会にて、ウサギの飼育について学校担当獣医師から指導を受けました。



動物の爪の観察

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の時間では、モルモットの適切なえさの量や主食を牧草にするよう助言をいただきました。
- 夏季休業前に猛暑対策について指導を受けました。長期休業中における保護者ボランティアによるモルモットのホームステイでは、えさや環境についての助言を生かして保護者と連携を図り進められました。
- 飼育委員会では、これまでの飼育活動における児童からの質問、飼育における改善について答えていただく機会を設けました。また、ウサギ小屋の環境改善と猛暑や防寒の対策について助言をいただきました。

【児童の反応】

- 生活科の時間では、飼育日誌の分担を設け、爪の伸び方、目や糞^{いん}の様子まで丁寧に観察するようになりました。
- 飼育委員会では、長期休業中など、ウサギにとってストレスが蓄積しないようウサギ小屋の環境を考えながら、児童が主体的に飼育活動を行っていました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

- 主に飼育委員会が世話をしているウサギの管理・飼育方法について学校担当獣医師の助言を得て、ウサギにとって最適な飼育方法を実践しました。



ウサギを見ながら
触れ合いの場の助言をしてもらいました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの飼育環境を学校担当獣医師に確認してもらい、助言を得ました。ラビットフードと干し草の適量の確認方法や糞尿ふんの始末の仕方を教わりました。
- 夏の暑さや冬の寒さへの適切な対策を講じることもウサギの健康維持に大切であることを教わりました。
- 低学年の児童がウサギと交流するに当たり、飼育委員会で触れ合いの場を作成することに対し、助言をいただきました。

【児童の反応】

- 食餌や糞尿ふんの始末について教えてもらったことを実践し、えさの量を適切にしたり、飼育舎の掃除を適切に分担したりするなどしました。
- 夏の暑さ対策としては、飼育ケージを購入し日中は冷房の効いた室内に置くことにしました。冬の寒さ対策としては、透明なビニールシートを飼育舎の全面に貼り、風を防いで日光は通すようにしました。また、冬季休業中は、飼育ケージに入れて室内に置くことにしました。
- 学校担当獣医師から受けた指導を基に、ウサギが移動する道を作ったり、一緒に遊ぶスペースを用意したりしました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

- 定期的に学校を訪問していただき、飼育動物の健康管理と、環境について指導・助言を受けることができました。実際に爪切りをしていただいたり、異物を飲み込んだ際に診察してもらったりすることができました。

世話の頻度や餌の種類などについて、指導を受け、動物に応じて栄養面でも気を配ることを学びました。



獣医師による健康診断 爪切りをしている

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師には、各学年に一回ずつ授業への参加をお願いしました。生活科をはじめ、理科、総合、道徳、国語等の教科の中で、動物との触れ合いを盛り込んだ授業内容に、学校担当獣医師の専門的な知識や経験をお話してもらい、児童の学びが深まりました。

- 地域の方には、毎朝の飼育小屋の清掃や、当番児童との飼育活動をボランティアとして依頼しています。安心してお願いすることができ、教員の負担軽減にもなっています。

土日の世話は、親子ボランティアを募って組織しています。保護者と児童が協力して世話をしており、良い親子の触れ合いの場となっています。

小動物は、ホームステイをお願いしています。生き物の飼育をしていない家庭からは喜ばれています。

【児童の反応】

- 多くの児童は、学校に動物がいることを、楽しみに生活をしています。児童アンケートでも、肯定的に捉えている児童・保護者がほとんどです。

- 学校担当獣医師から、衛生面について指導を受けており、動物にとって快適な環境を保つために、当番活動を協力して行っています。飼育小屋が汚れていると、自分たちで清掃する児童の姿が見られます。また、飼育環境の暑さや寒さについて、教員へ伝えてくる児童もいて、意識の高さが伺えます。



獣医師からうさぎの扱いについて指導を受ける飼育委員会児童



多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- ヤギとウサギの飼育を担当している第5学年、第6学年の飼育委員は、学校担当獣医師から動物の体のつくり、飼育環境や衛生指導など、専門的なお話を伺いました。

飼育委員は、伺った内容を、その後の飼育活動に活かすことができていました。



動物の体と飼育のお話を聞く飼育委員

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に学校担当獣医師と担当教員との打合せを行って進めたので、当日は円滑に実施することができました。打合せ内容は以下のとおり。
 - ・ お話いただく内容（教科学習での既習内容や児童が理解できる程度）と、お話いただく時間について
 - ・ 実際の小屋や放牧場を見て指導するかどうかについて
 - ・ 必要なAV機器等について

【児童の反応】

- 毎日ヤギとウサギにエサをあげている児童は、ヤギの胃が四つあり反すうしていることや、消化管の長さなどに関心をもって聞いていました。ウサギの食糞しやくらんにも驚いていました。草食動物の消化について詳しく学ぶことができ、エサの与え方や掃除の仕方などもメモを取りながら聞いていました。
- 日頃は詳しく聞くことのできない内容や、なんとなく習慣になっていた飼育方法を見直すことができ、将来獣医師になりたいと希望する児童が複数名出てきました。